

# 令和元年度 事業報告

公益財団法人 熊本県総合保健センター

## 令和元年度 事業報告

### 1 総括

令和元年度の事業実績については、地域保健は258,336人(計画比98%)、職域保健は98,500人(計画比101%)、学校保健24,040人(計画比95%)となり、合計は380,876人(計画比99%)であった。

地域保健では、移動・施設健診ともに減少傾向で、特にがん検診については胃がん検診の減少が大きくなっている。しかし、がん検診が減少傾向の中、施設健診では人間ドックが増加した。

職域保健では、特に移動健診の協会けんぽ健診及びがん検診が増加し、施設健診においては、人間ドックとがん検診が増加した。

特定保健指導については、職域健診(移動・施設)の協会けんぽ健診時における初回面談の分割実施を推進したことにより大幅に増加した。

また、熊本県健康増進計画(第4次くまもと21ヘルスプラン)、「第3次熊本県がん対策推進計画」で健診機関として「質の高い健診の提供や健康に関する情報提供」などの役割が示されたことを受け、健診データ分析に関するワーキンググループを設置し、データ分析を行った。

新健診システム導入に関しては、令和元年12月に(株)アイテック阪急阪神(大阪市)と契約を締結し、令和3年度稼働に向け、システム開発を行った。

さらに、将来にわたり公益財団法人として、熊本県の健康づくりに貢献するための基盤づくりとして新たに3期10年の経営計画を策定した。

医師確保については、今年度は課題解決には至らなかった為、次年度は事業戦略として継続して取り組むこととしている。また、遠隔読影システムについては、今年度から試行し、令和2年4月から稼働したところである。

### 令和元年度事業計画における重点目標の取組状況について

#### (1) 保健事業の推進

地域保健の移動健診については、がん検診が全体的に減少する中、乳がん検診が僅かに増加した。また、施設健診については、熊本市の胃がん内視鏡検診を開始した。なお、熊本市のがん検診において70歳以上が無料化されたが、胃がん検診の減少が目立った。これは、高齢者を中心とした胃部X線検査離れが原因と考えられる。例年実施している施設での休日がん検診は、今年度も2日間(約130名/日)行い、今後も受診率向上の為に継続していくこととしている。

職域保健については、協会けんぽ一般健診において、昨年度同様協会けんぽと連携した受診勧奨を行い休日健診を2日間実施(182名)した効果もあり、受診者数が昨年より265名増加した。また、施設健診ではN T T西日本の人間ドックや内視鏡検査を中心とした人間ドックが増加した。

しかし、3月には新型コロナウイルス発生により施設健診のがん検診が影響を受け前年比34%減の64件となった。

#### (2) 業務効率化及び精度管理の向上

新健診システム導入に併せて、現行業務の洗い出しを行い、システムに合わせた運用を行うことによって業務効率化を推進することとしている。

また、精度管理については全国労働衛生団体連合会の精度管理評価において、労働衛生・臨床検査・胸部X線項目にて最高位の優の評価であった。今後も現評価の維持継続を目指すこととしている。設備に関しては、蓄電池搭載デジタル胸部検診車の更新をするとともに施設内の胃デジタル装置・骨密度測定装置を更新し検査精度の向上を図った。

#### (3) 健康支援活動の充実

特定保健指導については、地域健診において、11市町村928件(前年比4%減)、職域健診において、協会けんぽ加入者の実施率向上により1,016件(前年比23%増)を実施した。

また、集団説明会を実施した10市町村については、受診結果の分析を行い、健康課題等を共有し効果的な健康づくりの支援を行った。精密検査においては、受診勧奨及び精密検査の重要性の啓発を行い70%以上の受診率を達成した。

産業保健活動については、産業医受託事業所に対し、労働安全衛生法に基づく健康管理に加え、産業保健スタッフによるメンタルヘルス等各種面談、食事指導等の支援、健康経営など総合的なサポートを行った。

## 2 保健事業実績

当センターが実施する保健事業は、「地域保健」、「職域保健」、「学校保健」の3つに分けられ、令和元年度実績数は、以下のとおりである。

### (1) 地域保健

#### ① 移動健診

(単位：人)

健(検)診項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
特定健康診査	24,700	24,227	△473	24,362	△135	99%
ふるさと総合健診	9,200	9,174	△26	9,340	△166	98%
胃がん検診	17,900	17,102	△798	17,939	△837	95%
子宮頸がん検診	15,500	15,137	△363	15,206	△69	100%
乳がん検診	21,700	21,210	△490	21,088	122	101%
肺がん検診	38,600	38,015	△585	38,385	△370	99%
大腸がん検診	22,600	21,735	△865	22,321	△586	97%
結核検診	45,200	44,558	△642	45,370	△812	98%
骨粗鬆症検診	8,100	8,179	79	8,154	25	100%
腹部超音波検診	34,000	33,525	△475	33,464	61	100%
前立腺がん検診	8,200	8,294	94	8,169	125	102%
肝炎ウイルス検査	1,500	1,530	30	1,549	△19	99%
小計	247,200	242,686	△4,514	245,347	△2,661	99%

達成率 98%

#### ② 施設健診

(単位：人)

健(検)診項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
特定健康診査	2,100	2,092	△8	2,049	43	102%
日帰りドック等	1,000	1,018	18	945	73	108%
胃がん検診	1,800	1,590	△210	1,700	△110	94%
子宮頸がん検診	1,700	1,849	149	1,795	54	103%
乳がん検診	2,200	2,407	207	2,325	82	104%
肺がん検診	2,400	2,262	△138	2,463	△201	92%
大腸がん検診	2,000	1,984	△16	1,999	△15	99%
結核検診	2,400	2,262	△138	2,463	△201	92%
骨粗鬆症検診	100	25	△75	31	△6	81%
前立腺がん検診	100	127	27	107	20	119%
肝炎ウイルス検査	100	34	△66	78	△44	44%
小計	15,900	15,650	△250	15,955	△305	98%

達成率 98%

地域保健	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
合計	263,100	258,336	△4,764	261,302	△2,966	99%

達成率 98%

## (2) 職域保健

## ① 移動健診

(単位：人)

健(検)診項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
定期Aコース	4,300	4,618	318	4,239	379	109%
定期Bコース	14,700	14,605	△95	14,729	△124	99%
生活習慣病予防コース	2,000	2,070	70	1,936	134	107%
協会健保(一般)	3,800	4,380	580	3,919	461	112%
特殊健診	8,000	8,182	182	8,215	△33	100%
特定健康診査	1,800	1,844	44	1,822	22	101%
結核検診	5,600	6,298	698	5,397	901	117%
胃がん検診	800	932	132	653	279	143%
子宮頸がん検診	300	365	65	327	38	112%
乳がん検診	300	407	107	389	18	105%
大腸がん検診	3,500	4,041	541	3,603	438	112%
腹部超音波検診	1,600	1,517	△83	1,527	△10	99%
ストレスチェック	7,800	6,000	△1,800	7,406	△1,406	81%
小計	54,500	55,259	759	54,162	1,097	102%
		達成率	101%			

## ② 施設健診

(単位：人)

健(検)診項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
定期Aコース	1,100	537	△563	1,012	△475	53%
定期Bコース	7,400	7,718	318	7,209	509	107%
生活習慣病予防コース	3,500	3,568	68	3,493	75	102%
協会健保(一般)	8,800	8,750	△50	8,946	△196	98%
協会健保(ドック)	1,700	1,740	40	1,715	25	101%
各種人間ドック	3,900	4,045	145	3,728	317	109%
特殊健診	1,600	1,597	△3	1,626	△29	98%
特定健康診査	1,000	891	△109	912	△21	98%
胃がん検診	800	823	23	751	72	110%
子宮頸がん検診	3,000	2,888	△112	2,987	△99	97%
乳がん検診	4,000	4,102	102	3,928	174	104%
大腸がん検診	800	771	△29	755	16	102%
腹部超音波検診	1,500	1,474	△26	1,454	20	101%
ストレスチェック	4,200	4,337	137	4,137	200	105%
小計	43,300	43,241	△59	42,653	588	101%
		達成率	100%			

職域保健	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
合計	97,800	98,500	700	96,815	1,685	102%
		達成率	101%			

## (3) 学校保健

## ① 教職員

(単位：人)

健(検)診項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
結核検診	6,600	6,638	38	6,757	△119	98%
結核検診(精密)	0	60	60	26	34	231%
胃がん検診	3,300	3,266	△34	3,299	△33	99%
小計	9,900	9,964	64	10,082	△118	99%
	達成率	101%				

## ② 学生

(単位：人)

健(検)診項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
結核検診	12,400	10,929	△1,471	12,340	△1,411	89%
結核検診(精密)	0	17	17	6	11	283%
ツベルクリン反応・BCG	0	0	0	0	0	0%
尿・心電図・貧血・診察	3,100	3,130	30	3,106	24	101%
小計	15,500	14,076	△1,424	15,452	△1,376	91%
	達成率	91%				

学校保健	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
合計	25,400	24,040	△1,360	25,534	△1,494	94%
	達成率	95%				

## ～ 実績合計 ～

(単位：人)

移動健(検)診	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
合計	327,100	321,985	△5,115	325,043	△3,058	99%
	達成率	98%				

(単位：人)

施設健(検)診	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
合計	59,200	58,891	△309	58,608	283	100%
	達成率	99%				

(単位：人)

総合計	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
	386,300	380,876	△5,424	383,651	△2,775	99%
	達成率	99%				

(4) 特定保健指導

特定保健指導は、センターが実施する健康診断の受診者に対して行う保健事業である。  
健診受診後の生活習慣改善につなげるための重要な事業である。  
保健師、管理栄養士が、センター施設内及び各地域へ出向き実施する。

[地域 移動]

(単位：人)

特定保健指導項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
動機付け支援	740	694	△46	745	△51	93.2%
積極的支援	140	161	21	163	△2	98.8%
合計	880	855	△25	908	△53	94.2%

[地域 施設]

(単位：人)

特定保健指導項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
動機付け支援	50	59	9	52	7	113.5%
積極的支援	10	14	4	18	△4	77.8%
合計	60	73	13	70	3	104.3%

[職域 移動]

(単位：人)

特定保健指導項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
動機付け支援	110	37	△73	25	12	148.0%
積極的支援	170	100	△70	62	38	161.3%
合計	280	137	△143	87	50	157.5%

[職域 施設]

(単位：人)

特定保健指導項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
動機付け支援	230	322	92	253	69	127.3%
積極的支援	420	614	194	480	134	127.9%
合計	650	936	286	733	203	127.7%

～ 特定保健指導 実績合計 ～

(単位：人)

特定保健指導項目	令和元年度 計画 A	令和元年度 実績 B	計画比 (B-A)	平成30年度 実績 C	実績比 (B-C)	増減率 B/C
動機付け支援	1,130	1,112	△18	1,075	37	103.4%
積極的支援	740	889	149	723	166	123.0%
合計	1,870	2,001	131	1,798	203	111.3%

達成率 107%

(参考)

当センターでは、健康診断後のフォローのため、実施主体の結果説明会において結果の見方や栄養指導等の説明を行っている。

結果説明会(情報提供)実施状況

	結果説明会			
	実施日数	実施回数	会場数	実施人数
合計	51	54	22	3,800

(5) 産業保健活動

43事業所と産業医契約を受託しており、労働者の働きやすい環境のために、職場巡視の実施及び衛生委員会への参加を行った。また、半数近い事業所では、各種セミナー、長時間労働者やメンタル不調者への面談、休職者への職場復帰支援の取り組みを行った。

なお、産業医事業所を対象とした産業保健研修会及び衛生教育に関する健康講話の実績等については、普及啓発活動に記載する。

(6) がん検診の精度管理

がん検診における精度管理のひとつとして、検診後の精密検査結果を把握し、その集計統計から発見されるがんの数などを全国レベルと比較している。

また、発見されたがんについては、「発見がん個票」を作成し、がんのステージや組織分類等について追跡調査を行い、関係市町村と連携し受診者の事後管理に努めている。

なお、日本対がん協会へ報告を行った平成29年度におけるがん検診の実績は下表のとおりである。

※全国実績（2019年度版がん検診年次報告書より）

	発見がん数 (人)	要精検率 (%)	精検受診率 (%)	がん発見率 (%)
肺がん検診	18	0.30	69.00	0.03
	1,619	1.98	79.53	0.05
胃がん検診 ※1	26	3.30	76.70	0.05
	2,435	6.51	79.86	0.12
大腸がん検診	49	6.60	63.80	0.09
	4,400	6.05	69.10	0.17
子宮頸がん検診 ※2	35	3.90	84.00	0.05
	174	1.40	83.81	0.01
乳がん検診	59	3.80	82.00	0.18
	3,043	4.68	90.06	0.24
総数	187			
	11,671			

※1 胃がん検診の発見がん数には、内視鏡を含む。

※2 子宮頸がん検診の発見がん数には、上皮内癌を含む。

※3 各項目の上段にセンター実績、下段に全国実績を記載している。

がん検診のプロセス指標（許容値）

指標	肺がん	胃がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
要精検率	3.0%以下	11.0%以下	7.0%以下	1.4%以下	11.0%以下
精検受診率	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	80%以上
がん発見率	0.03%以上	0.11%以上	0.13%以上	0.05%以上	0.23%以上

### 3 がん登録事業

熊本県からの委託事業として、県内医療機関等の協力を得て、地域がん登録に係る登録票 66 件、全国がん登録に係る登録票 21,183 件を受理し、県全域にわたるがん情報の登録を行った。さらに平成 29 年度全国がん登録遡り調査も 631 件行った。

また、熊本県の地域がん登録事業における平成 28 年のがん罹患統計をまとめた「熊本県のがん登録（2016）」を作成し、関係機関へ配布するとともに熊本県ホームページで公開した。

熊本県のがん登録事業は、非常に高い登録精度を保っていることから、全国がんモニタリング集計(MCIJ)精度基準（A基準）をクリアし日本がん登録協議会より平成 30 年度も「都道府県がん登録実務功労賞銀賞」を受賞した。

### 4 普及啓発活動

法人独自による公益目的事業のための普及啓発活動はもとより、公益財団法人結核予防会及び公益財団法人日本対がん協会の熊本県支部としての普及啓発を行った。

また、講演会の実施や地域イベントへの参加などを通じ、広く県民へ健康づくりのための普及啓発を行った。

#### （1）自主事業

##### ① 地域保健研修会

令和元年 11 月 21 日（木） 熊本市 ホテル熊本テルサ 参加者 62 名

熊本県内の市町村及び事業所の保健師及び健康管理担当者等を対象に、熊本県のがん検診精度管理についての情報提供・がん検診の精度管理と将来の姿についての特別講演・受診率向上への挑戦についてのトークセッション及びセンター事業の報告を行った。

#### 情報提供

「熊本県のがん検診精度管理について」

熊本県健康福祉部 健康づくり推進課 古城 薫

#### 特別講演

『～がん検診～精度管理と将来の姿』

公益財団法人日本対がん協会 がん検診研究グループ  
マネージャー 小西 宏

#### トークセッション

『受診率向上への高浜町の挑戦』

福井県高浜町 保健福祉課 課長補佐 越林 いづみ  
(進行)

公益財団法人日本対がん協会 がん検診研究グループ  
マネージャー 小西 宏



報告

「臨床検査の精度管理について」

臨床検査技師 吉村 和代

「特定保健指導について」

管理栄養士 別府 歩

② 産業保健研修会

令和2年1月29日(水) 10:00~13:00

熊本城ホール 参加者 96名

産業医受託事業所、健診事業所の健康管理担当者を対象に「健康経営とアンガーマネジメントの活用術」と題して研修会を開催した。

研修会では、東京商工会議所 所長 中村友樹先生による「健康経営がつくる企業の未来」についての講演、当センター産業保健推進室 堀口保健師による「アンガーマネジメント活用術」と題しての講演が行われた。さらに、当センター管理栄養士監修によるバランス弁当の試食会を兼ねたランチョンセミナーにおいて、事業所への食サポート(別府管理栄養士)及び産業保健活動報告(下村保健師)並びに健診事業の紹介(西主任)を行った。

③ 健康講話等

産業医受託事業場等と連携し、各健康課題に合わせ、生活習慣病予防等の講話を実施した。

また、法律の変化に沿ったハラスメントやアンガーマネジメントに関する講話等、健康職場を構築するための活動を推進した。

区分	内容	回数
生活習慣病予防	アルコール・喫煙の影響 メタボ改善・かくれ肥満脱出法 質の良い睡眠のとり方 等	28回
職場環境関連	健康経営でいきいき企業 長時間労働者への対応、対策 等	10回
メンタルヘルス関連	アンガーマネジメント活用術 ストレスチェック結果分析報告 Let's いきいき職場づくり ラインケア～傾聴の方法～ セルフケア～交流分析で自分を知ろう～	35回
その他	応急処置 熱中症 インフルエンザ対策 等	13回
	合計	86回

## (2) 支部事業

### ① 複十字シール運動「知事表敬訪問」

令和元年8月5日(月) 熊本県庁

複十字シール運動開始に合わせ、熊本県健康を守る婦人の会役員、当センターマスコットキャラクター「そうほくん」とともに、蒲島郁夫熊本県知事を表敬訪問し結核の現状及び複十字シール運動の趣旨説明を行い運動への協力をお願いした。

なお、今年度の募金総額は、6,102,231円であった。

### ② 結核予防・がん征圧街頭キャンペーン

令和元年9月28日(土) 宇城市 イオンモール宇城

全国一斉結核予防週間及びがん征圧月間に係る行事として、県民への結核・がんに対する正しい知識の普及啓発のため、熊本県健康を守る婦人の会宇城支部及び宇城保健所とともに、無料の結核検診をはじめ、結核パネルや肺がんモデルの展示、結核予防に関する資料の配布、複十字シール運動募金及び健康相談を行った。

### ③ リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019 くまもと

令和元年5月18日(土)・19日(日) 熊本市 白川公園

9回目の開催となるがん患者支援・がん啓発 24時間ウォークチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ」を、リレー・フォー・ライフくまもと実行委員会とともに開催し、スローガン「心ひとつ絆つむいで」のもと、多くの県民の方々と交流を行った。

## (3) 協力事業

### ① 熊本市 「第42回火の国まつり おてもやん総おどり」

令和元年8月3日(土) 熊本市

当センターのPRと職員のコミュニケーション向上を目的にセンター職員及び家族など49名が参加し健診受診を呼びかけた。

### ② 菊池郡市薬剤師会市民公開講座「第10回薬と健康教室」

令和元年8月18日(日) 菊陽町図書館ホール

劇団キャロイモ with そうほくんによる寸劇「私のバアちゃん認知症？」に出演し、来場者へ向け生活習慣病の予防や上手な薬局の活用法などについて呼びかけた。

### ③ ジャパン・マンモグラフィー・サンデー

令和元年10月20日(日) 日曜健診

子育て・介護・仕事など多忙な日々を過ごす女性のために「10月の第3日曜日に全国どこでもマンモグラフィー検査が受診できる環境作り」を提唱する「ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(JMSプログラム)」に賛同し、乳がん検診をはじめ、肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診を当センター施設で実施した。

- ④ 公立多良木病院 「第5回公立多良木病院健康フェスタ」  
 令和元年10月27日（日） 公立多良木病院  
 地域住民の健康への関心を高め、地域医療をより身近に感じてもらうことを目的としたイベントにおいて、がんや結核予防など健康づくりをテーマに「そうほくんクイズ大会」を実施し、来場者へ検診受診に向けた普及啓発を行った。
- ⑤ 熊本大学学園祭における子宮頸がん検診（K発プロジェクト）  
 令和元年11月4日（月・祝） 熊本大学 黒髪キャンパス  
 子宮頸がんに対する正しい知識と子宮頸がん検診の重要性について、熊本大学の学生と連携し普及啓発を行い、併せて実施した無料の子宮頸がん検診では学生など36名が受診した。  
 また、K発プロジェクトで活動している崇城大学の学生へも子宮頸がん検診無料クーポン券を提供するなど検診の普及を図った。
- ⑥ あさひば 「第32回市民のつどい」  
 令和元年11月10日（日） 熊本市 秋津まちづくりセンター  
 「あさひば」（秋津・桜木・桜木東・若葉校区）4校区の連携及び地域活性化のため行われているイベントにおいて、無料の骨粗鬆症検査を29名に実施した。
- ⑦ 健軍商店街 「健康フェア&よかもん市」  
 令和元年11月16日（土） 熊本市  
 がんや結核予防など健康づくりをテーマに「そうほくんクイズ大会」を実施した。  
 また、日本対がん協会が発行する乳がん・子宮頸がん検診無料クーポン券の配布など地域住民へ検診受診に向けた普及啓発を行った。
- ⑧ アスリートクラブ熊本「ロアッソ熊本」へのスポンサー協賛  
 年間スポンサーとしてピッチボードを作成しセンターPRを行った。
- ⑨ テレビ出演等による普及啓発活動  
 熊本県内のテレビ及び新聞等のメディアを利用し普及啓発活動を行った。

【テレビ出演】

- ・TKU「てれくまくん医療情報室」（熊本県医師会へ協賛）  
 令和元年8月28日（水）「がん征圧月間」 村上 晴彦 医師  
 令和元年9月11日（水）「結核予防週間」 西村 龍一 医師
- ・TKU「くらしの窓」（熊本県医師会へ協賛）  
 令和2年1月11日（土）「がんについて」 土亀 直俊 医師

【記事・広告掲載】

- ・朝日新聞  
 令和元年8月30日（金）「がん征圧月間」

## 5 健康経営「SOUHO革命」

国が推奨する「健康経営」について、センター職員の自己健康管理能力を高め、心身の健康を向上させ、センター経営の発展につなげることを目的に「SOUHO革命」と称し、①栄養、②運動、③禁煙、④睡眠の4つの柱を置き、栄養セミナー、歩数アップ大会、などを実施した。さらに、今年度は健康づくりの一環として保健師・管理栄養士・運動指導士のサポートにより、「食」と「運動」の両面から体調・体重管理を行う「ボディメイク！チャレンジ☆」や各課（科）対抗スポーツ大会を実施することで、職員の自己管理能力の向上を図り、また職員が運動を通して交流を深めることができる環境の提供を行った。

## 6 学会発表等

第92回 日本産業衛生学会 全国学会(名古屋国際会議場) 5月23日(木)

「ストレス反応を改善させる背景因子 ～交替制勤務者目線からの解析の試み～」

保健師 堀口 真愛

### 【目的】

ストレスチェック制度は、労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止する「一次予防」の強化が主たる目的である。その中でも、従業員による参加型職場環境改善は、労働や労働環境に起因したリスク低減を事業者・労働者が進めていく上で有効で実践的な方法論として提唱されている。しかし、従来型のストレスに関する解析では研究者目線が多く、従業員目線からの報告は少ない。そこで、今回我々は、参加型職場環境改善を行った従業員の目線から、ストレス反応を改善させる背景因子について明らかにすることを目的とした。

### 【方法】

本研究の対象は、産業医契約を結んでいる従業員 238 名の製造業の事業場である。2017年にストレスチェックを実施した従業員のうち、健康診断受診者、2018年のストレスチェックの有効回答者 216 名<平均年齢 35.0±12.1 歳、男性 174 名、女性 42 名、常昼勤務者 108 名、交替制勤務者 108 名(男性 82 名、女性 26 名)>を対象に解析を行った。分析に用いた項目は、ストレスチェック(職業性ストレス簡易調査票 57 項目)、ワークエンゲイジメント<(日本語版 UWES) 以下、WE とする>、健康診断結果(BMI、血圧、血糖、脂質)、健診問診票(標準的な質問票)、アルコール使用障害スクリーニング AUDIT とした。

### 【結果】

先行研究によると交替制勤務者は心身の健康に影響を及ぼすとされているが、本研究においては、健康診断、健診問診票、AUDIT の結果に関して、常昼勤務者と交替制勤務者間での有意な差はみられなかった。しかし、WE の合計点数の平均値は、常昼勤務者 24.23±10.50 点、交替制勤務者 16.88±10.50 点と交替制勤務者のほうが有意に低かった(p<0.01)。また、2017年のストレスチェックの集団分析結果より、健康リスクの平均値は交替制勤務者(101)のほうが常昼勤務者(90.8)と比較して高い傾向があること

がわかった。そこで、交替制勤務者 108 名を対象に、参加型職場環境改善「Let's いきいき職場づくり」を実施した。また、同時にリーダーへの教育、メンタルヘルス面談、禁煙面談等を実施した。介入 1 年後、交替制勤務者の中のストレス反応改善者の背景因子を解析するため、年齢、性別を調整した二項ロジスティック回帰分析を行い、オッズ比を算出した。ストレス反応悪化群に比べて、ストレス反応改善群は、WE の合計点数が高い (OR=2.34, 95%CI: 1.02-5.39)、個別面談実施 (OR=12.04, 95%: 3.23-44.88)、グループ面談実施 (OR=6.30, 95%: 1.78-22.32)、個別面談もしくはグループ面談実施 (OR=25.04, 95%: 7.15-87.72) という背景因子が判明した。

#### 【考察】

ストレス反応改善のためには、従業員の WE を高めることと、面談の実施が効果的だといえる。また、「Let's いきいき職場づくり」を実施した集団では、中間管理職のライオンケアの強化、コミュニケーションの向上が集団のストレス反応改善に関連すると考えられる。本研究の結論の一般化の妥当性については、現時点では不透明であるが、ストレス反応を改善させる因子として、個別アプローチと合わせ、集団アプローチが重要な施策であることを示唆する結果と解釈した。

第 29 回 九州農村医学会 (熊本市)

8 月 3 日 (土)

「がん検診 精密検査受診率アップの取り組み」

保健師 石本 愛理

#### 【背景】

がんは約 30 年前から死因の第 1 位であり、今や日本人の約 2 人に 1 人ががんになり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。厚生労働省はがん対策推進基本計画中の全体目標の 1 つにがんによる死亡者の減少という目標を掲げている。がんによる死亡者を減少させる為に、精密検査受診率対策は重要であると国立がん研究センターは発表している。

#### 【目的】

がん検診精密検査受診率アップ作戦を行った自治体において、精密検査受診率が上昇したので報告する。

#### 【方法】

当センターで実施したがん検診 (胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん) の精密検査受診率が低い保健所管轄のランキング化した。受診率が低かった 3 自治体 (A 町, B 町, C 村) をピックアップし、モデルに選定した。モデルに選定した 3 自治体に対し精検受診率アップ作戦を実施、精密検査受診率アップ作戦終了後に分析を行った。

#### 【結果】

A 町では、精密検査受診率アップ作戦を行う前のがん検診精密検査受診率は約 40~60% 台だったが、実施後 70~90% 台に上昇した。5 がん検診全体で見ると 29.2% アップした。

B 町では、精密検査受診率アップ作戦を行う前のがん検診精密検査受診率は約 40~70% 台だったが、実施後 70~90% 台に上昇した。5 がん検診全体で見ると 28.4% アップした。

C 村では、精密検査受診率アップ作戦を行う前のがん検診精密検査受診率は約 30~100% 台だったが、実施後 50~100% 台に上昇した。5 がん検診全体で見ると 24.0% アッ

ブした。

【考察】

精密検査受診率をアップさせるには、様々な課題があるが、密接な受診勧奨が有効である。

第 29 回 九州農村医学会（熊本市）

8 月 3 日（土）

「当センターにおける高齢者等に対する胃検診時の現状と対策」

診療放射線技師 北村 伸雄

（目的）

胃 X 線撮影において、高齢者や身体機能が不自由な方など基準どおりの撮影が困難な場合は独自の対応を強いられている。今回、当センターにおける高齢者等に対する取り組みの現状及び課題について検討し、安全対策等に役立てることを目的とする。

（方法）

当センターにおける H28 年度の対策型検診の受診者は 27200 名で 65 才以上が 60% である。高齢者の撮影における問題点を分析し、それに対する対策についてまとめ、検討する。

（結果）

当センターにおける胃 X 検診受診者の数は減少しているが、65 才以上の割合は増加し、特に 75 才以上の割合が高くなっている。高齢者に多い問題点としては、指示の伝達不足、身体機能の衰え、体力低下、嚥下機能の低下があり、対策として、十分な説明と問診、腕の擦傷防止のカバーの使用、手袋の使用、監視カメラの増設などの対策により、安全面や受診者の不安の軽減などの改善点が見られた。

（考察）

受診者における高齢者の割合は年々増加している。いくつかの改善点により安全性は向上した。しかし、撮影に関しては受診者個々の状態により異なるので標準化は困難と感じた。今後も受診者の高齢化が進み関係スタッフの教育、訓練及び連携がこれまで以上に求められることが予想される。今後も更なる検討や分析を行い、すこしでも改善していくことが求められる。

第 49 回 日本消化器がん検診学会九州地方会（鹿児島市）

9 月 21 日（土）

「当センターにおける大腸がん検診の現況」

保健師 浦田 香織

【はじめに】

近年、がん検診の精度管理が重要視され、大腸がん検診の精検受診率が他のがん検診より低い現状である。今回、平成 28 年度の実績評価を行ったので報告する。

【目的】

精検受診状況や問題点を把握し、今後の対策を検討する

【対象・方法】平成 28 年度に大腸がん検診を受けた 51,179 名の未受診者への受診勧奨ハガキ

の回答を集計した

[結果・考察]

平成 26 年度からの 3 年間での精検受診率は平成 28 年度が最も低かった。そのなかで対策型検診と任意型検診で分けた場合、地域が 77.4%、職域が 47.7%と職域の精検受診率が低い現状であった。

職域の未受診者への受診勧奨ハガキの回答率は 7%で、内容は受診済が 3%、未受診が 4%であった。未受診理由の内容は忙しい 22%、予約するがキャンセル 22%、異常を感じない 17%、昨年実施した 11%、便再検で異常なし 11%、予約済 11%、検査拒否 6%でいずれも検診に対する理解不足がみられた。また、地域と比較したが、同様の傾向にあり、受診者へ精密検査の重症性を理解してもらふ必要がある。また、受診勧奨を行っている団体が少ないため、受診勧奨の強化も求められる。

[結語]

受診勧奨を含めた会社への働きかけと情報提供資料や説明会で精密検査の重要性をわかりやすく普及する必要がある。

第 20 回熊本県放射線技師会リーダー研修会（熊本市） 11 月 16 日（土）

講演「県内各施設における人材育成～モダリティ編～」

健診胃 X 線検査について

診療放射線技師 山本 高弘

糖尿病予防対策関係者研修会（熊本市） 2 月 17 日（月）

「産業保健活動における DM 熊友パス等を活用した糖尿病重症化予防の取り組み」

保健師 下村 愛

## 7 その他

### （1）熊本県集団検診機関連絡会

当センターが事務局として、県内 12 の集団検診機関及び行政との連携協力を図ることを目的に令和元年 6 月 25 日（火）に熊本市において連絡会を開催し、令和 2 年 2 月 14 日（金）に八代市において連絡会及び専門部会を開催した。

また、12 機関合同での普及啓発活動として、熊本日日新聞およびバナー広告などで健（検）診受診を呼びかけた。

### （2）熊本県胃検診推進協議会

当センターが事務局として、胃集団検診機関並びに胃がん精密検査機関の精度向上と検診業務等の円滑な推進を目的に研修会を開催した。

#### ① 令和元年 9 月 14 日（土） 熊本市

「モテる！ピロリ陰性時代の上部消化管内視鏡検診」

埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科 准教授 野中 康一医師

## 行 事

### ① 主 行 事

月	日	名 称	場所
4	1	職員採用辞令交付式	熊本市
5	18-19	リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019	熊本市
	29	令和元年度 事業監査	熊本市
6	4	常務理事会・理事会	熊本市
	5	全国労働衛生団体連合 通常総会	東京都
	19	定時評議員会・臨時理事会	熊本市
	25	第1回熊本県集団検診機関連絡会	熊本市
7	2	日本対がん協会2019年度全国事務局長会議	東京都
8	5	複十字シール募金県知事表敬訪問	熊本市
	23	常務理事会	熊本市
	29	令和元年結核予防会・日本対がん協会 九州・沖縄地区合同会議	鹿児島市
9	12	日本対がん協会 がん征圧全国大会	松山市
	21	ヘルシーディくまもと	熊本市
	28	結核予防・がん征圧街頭キャンペーン	宇城市
11	4	熊本大学紫熊祭（無料子宮頸がん検診）	熊本市
	20	常務理事会	熊本市
	21	地域保健研修会	熊本市
12	27	仕事納め式	熊本市
1	6	仕事始め式	熊本市
	10	安全祈願式	熊本市
	16	全国労働衛生団体連合 九州地方連絡協議会	北九州市
	29	産業保健研修会	熊本市
2	3	定期人事異動 辞令交付	熊本市
	7	職員採用試験	熊本市
	14	第2回熊本県集団検診機関連絡会	八代市
3	24	常務理事・理事会	熊本市
	27	熊本県総合保健センター創立記念日（永年勤続・資格取得者表彰）	熊本市
	31	退職職員 辞令交付式	熊本市



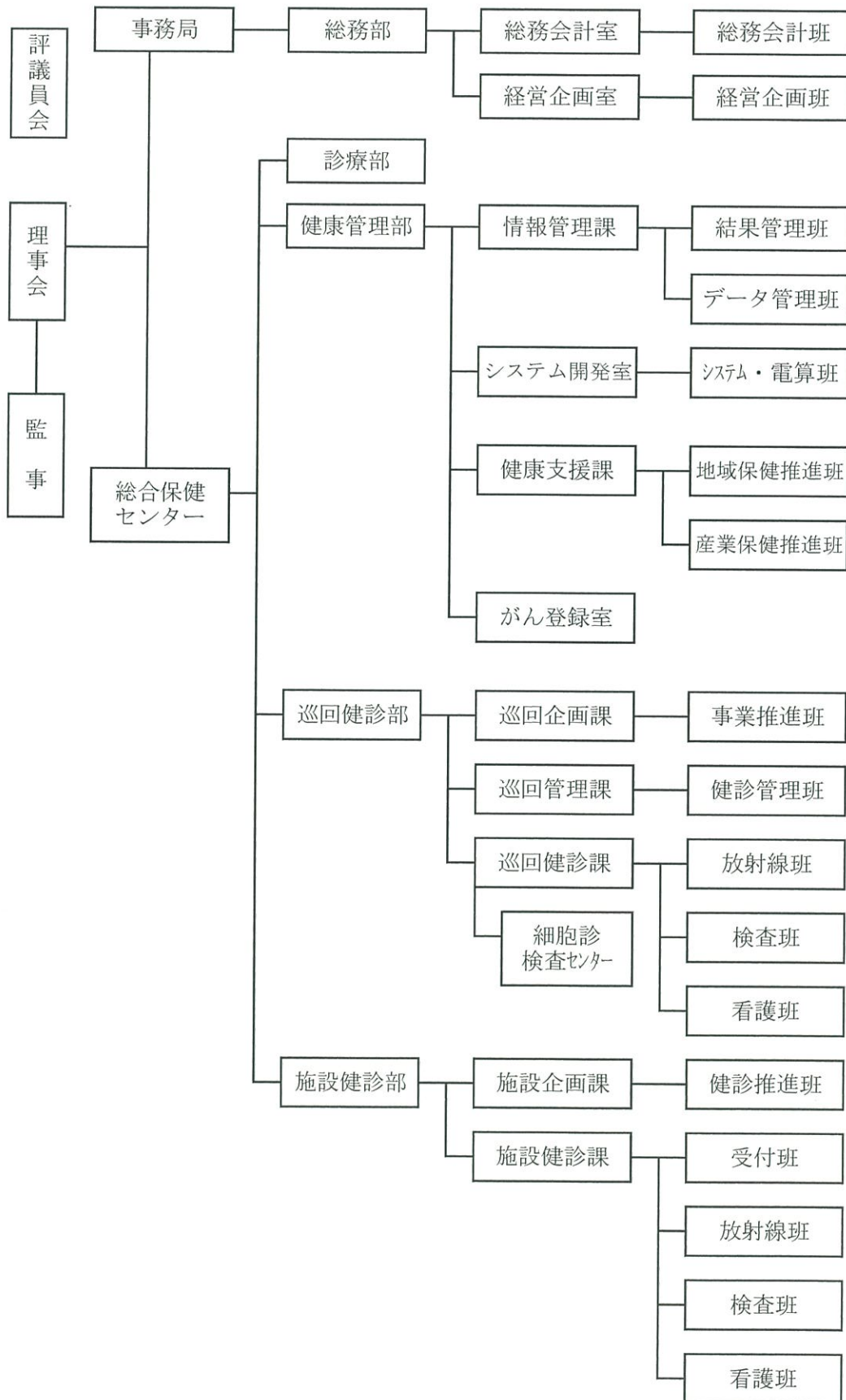
② 学会・研修会等

月	日	名 称	場 所
4	11	第71回日本産科婦人科学会学術講習会	名古屋市
	11	第78回日本医学放射線学会	横浜市
	16	経営者のための健康経営セミナー	熊本市
	17	脱★ドンブリ経営セミナー	熊本市
	21	南阿蘇村婦人会総会（講演依頼）	南阿蘇村
	25	賃金制度見直し基礎講座	熊本市
	26	消費税軽減税率精度等に係る職員研修会	熊本市
5	16	環境分析と目標からみる戦略形成及び健全経営にむけたガバナンス構築への参加	福岡市
	18	日本医学検査学会	下関市
	22	第92回日本産業衛生学会	名古屋市
	25	第113回日本消化器病学会九州支部例会及び第107回日本消化器内視鏡学会	福岡市
	26	第75回九州消化器内視鏡技術研究会	久留米市
	5	熊本産業保健総合支援センター「発達障害の理解と支援」	熊本市
	3	令和元年度「人権同和問題に関する事業主等研修会」	熊本市
	15	第33回熊本消化器内視鏡技師研究会	熊本市
	19	全国公益法人九州地区定例講座	福岡市
	21	日本乳がん検診精度管理中央機構 第67回デジタルマンモグラフィ技術講習会	福岡市
	23	熊本法人会 木曜教室「総務・庶務の基本と実務講座」	熊本市
	25	第60回日本人間ドック学会	岡山市
	26	第1回自治体資金運用セミナー	熊本市
31	全国がん教育勉強会	札幌市	
8	3	第29回九州農村医学会	熊本市
	21	熊本法人会 木曜教室「決算書の使い方基礎講座」	熊本市
	24	日本臨床細胞学会 第77回細胞検査士教育セミナー	横浜市
	29	日本産業衛生学会 産業保健看護専門家制度委員会認定研修	東京都
	29	公正採用選考人権・同和問題啓発推進員研修会	熊本市
9	1	食コンディショニングアドバイザー養成講座	名古屋市
	3	令和元年度特定保健指導担当者研修会	熊本市
	4	安全運転管理者講習	熊本市
	13	公益・一般法人の予算の在り方と管理	福岡市
	13	世界の潮流と、地域社会に求められるICT	熊本市
	14	第47回九州細胞診研修会	鹿児島市
	17	令和元年度依存症支援者研修会	熊本市
	20	第47回日本磁気共鳴医学会大会	熊本市
	21	第49回日本消化器がん検診学会九州地方会及び拡大プログラム	鹿児島市
	24	基本的な公益法人会計の会計処理を区分経理に伴う配賦処理	熊本市
	26	令和元年度特定健診等未受診者対策支援研修会	熊本市
10	5	第10回熊本県院内がん登録研修会	熊本市
	16	中災防 心理相談専門研修	福岡市
		第9回日本認知症予防学会学術集会	名古屋市
	18	木曜教室 「働き方改革」に対応した企業実務と実践への参加	熊本市
	23	「業務改革推進セミナー」～小規模導入から始めるRPA活用のコツ～	熊本市
	24	JATA災害時支援協力者研修	東京都
26	日本消化器がん検診学会 第4回胃がん検診専門技師研修会	横浜市	

月	日	名 称	場 所
11	2	2019年度日臨技九州支部医学検査学会	熊本市
	8	第114回日本消化器病学会九州支部例会・第108回日本消化器内視鏡学会九州支部	宮崎市
	8	NPO法人 日本人間ドック健診協会 九州健診経営研究会 第4回研究会	福岡市
	13	令和元年度特定保健指導実施機関及び協会けんぽ熊本支部合同研修会	熊本市
	13	第4回関西 総務・人事・経理Week	大阪市
	15	第64回熊本県環境審議会	熊本市
	16	第58回日本臨床細胞学会秋期大会	岡山市
	16	第20回熊本県放射線技師会リーダー研修会	熊本市
	16	熊本県立大学 学びing 1DAYスキルアップ実践型セミナー	熊本市
	19	人事総務を徹底的に効率化するセミナー	熊本市
	21	日本消化器がん検診学会（JDDW）及び代議員会	神戸市
	21	日本放射線腫瘍学会 第32回学術大会	名古屋
	27	中災防 実務向上研修会Cコース	大阪市
12	3	令和元年度熊本市国保生活習慣病重症化予防研修会	熊本市
	5	日経MJフォーラム人事・総務・経理部門の働き方改革	福岡市
	7	保険医療機関の集団指導	熊本市
	10	2019年度 全国がん登録都道府県行政担当者研修・実務者研修（中級）	東京都
	20	DXレポートに学ぶ地域経済課題と求められるアクション	熊本市
	21	第11回熊本県院内がん登録研修会及び懇親会	熊本市
1	9	会社を伸ばすための経営・財務・税務講座	熊本市
	16	WEB予約一元化システム研修会	愛媛県松山市
	21	全衛連 保健師・看護師等研修会	東京都
	31	日赤熊本健康管理センター 令和元年度 健診・保健事業担当者研修会	熊本市
2	5	令和元年度産業廃棄物排出業者研修会	熊本市
	14	全衛連 胸部X線検査研修会	東京都
	16	NPO法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 第56回更新講習会	名古屋市
	17	令和元年度糖尿病予防対策関係者研修会	熊本市
	18	全衛連 特殊健康診断研修会	東京都
	22	日本健康運動指導士 2019年度更新必修講座	熊本市
	23	第36回熊本県臨床細胞学会学術集会・総会	熊本市
	29	日本乳がん検診精度管理中央機構 第3回乳房超音波技術更新講習会	名古屋市

# 1 組 織

令和2年3月31日現在



## 2 職員構成

令和2年3月31日現在

職 種 別	区分	医師	事務	主事	放射線	臨床検査	看護師	保健師	栄養士	合計
	役員	2	1							3
	職員	3	34	4	20	29	14	10	4	118
	嘱託	3	1	7	3	4		2		20
	合計	8	36	11	23	33	14	12	4	141

### 3 役員

令和2年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
理事長	福田 稔	熊本県医師会 会長
副理事長	岩谷 典学	(公財) 熊本県総合保健センター 総括医
副理事長	金子 徳政	(公財) 熊本県総合保健センター 事務局長
副理事長	坂本 不出夫	熊本県医師会 副会長
常務理事	岡崎 光治	熊本県健康福祉部健康局 健康局長
常務理事	新谷 良徳	熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課 課長
常務理事	土亀 直俊	総合保健センター 所長
常務理事	水足 秀一郎	熊本県医師会 副会長
理事	荒木 ミドリ	熊本県健康を守る婦人の会 会長
理事	池田 理	熊本大学大学院生命科学研究部 放射線診断学分野 准教授
理事	伊藤 明彦	熊本県歯科医師会 会長
理事	嶋田 晶子	熊本県看護協会 会長

(役員総数12名)

監事	稲岡 政弘	稲岡政弘税理士事務所 所長
監事	大柿 悟	熊本県医師会 理事

(監事総数2名)

## 4 評 議 員

令和2年3月31日現在

役 職 名	氏 名	公 職 名
会 長	金 澤 知 徳	熊本県医師会 副会長
副会長	池 田 洋一郎	熊本県保健所長会 会長
評議員	岩 元 俊 弘	熊本日日新聞社 専務・総括
評議員	奥 名 克 美	熊本県町村会 評議員
評議員	片 淵 秀 隆	熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学分野 教授
評議員	河 津 延 雄	テレビ熊本 取締役
評議員	田 村 仁	熊本商工会議所 事務局長
評議員	中 嶋 憲 正	熊本県市長会 会長
評議員	中 山 広 海	熊本県国民健康保険団体連合会 常務理事
評議員	前 出 洋	肥後銀行 理事人事部長
評議員	南 久 則	熊本県栄養士会 会長
評議員	宮 崎 隆 一	熊本県医師会 理事
評議員	森 山 憲 治	熊本県薬剤師会 副会長

(評議員総数13名)

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年6月

公益財団法人 熊本県総合保健センター